



ササノカ かわら版



令和6年産米 情報

■佐賀県(7月17日現在)

これまでの大雨で軟弱徒長し、茎数が不足している圃場が見られる。

さがびより・ヒヨクモチの茎数がかなり少なかった。今後は、適正な水管理を行い、有効茎の確保に努めるようです。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月~7月
コシヒカリ	[Progress bar]							出荷開始以降は
夢しずく	[Progress bar]							通年での販売と
ヒノヒカリ	[Progress bar]							なります。
さがびより	[Progress bar]							
ヒヨクモチ	[Progress bar]							

令和6年産水稻の生育状況 (佐城農業指導者連絡協議会、7月17日現在)

	場所・田植日	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉齢		葉色 (SPAD)	
		本年	平年比	本年	平年比	本年	平年差	本年	平年差
夢しずく	佐賀市本庄町6/17	57.2	+16%	289	+1%	9.8	+0.7	41.0	±0.0
さがびより	小城市芦刈町6/22	40.2	▲6%	195	▲41%	8.4	▲0.8	37.5	▲2.9
ヒヨクモチ	神崎市神崎6/21	36.9	+2%	300	▲28%	9.6	+0.3	45.1	+4.4

今年も暑い夏が！！

チベット高気圧と太平洋高気圧が上空で重なり合う“ダブル高気圧”で、35度以上の猛暑日が続いたり、地域によっては40度前後の酷暑になったりするおそれがあります。

- 地球温暖化の影響等により、中緯度帯を中心に大気全体の温度がかなり高い。
- ラニーニャ現象が発生する可能性が高く、海面水温が西部太平洋熱帯域で高く、中・東部太平洋赤道域で低く、また、インド洋熱帯域では東部を中心に高く。このため、東南アジア付近を中心に積乱雲の発生が多い一方、中部太平洋赤道域では積乱雲の発生が少ない。
- これらの影響により、太平洋高気圧が日本の南東で強く、偏西風は日本付近では平年より北寄りを流れる。
- これらのことから、日本付近は暖かい空気に覆われやすくなる。また、沖縄・奄美や東・西日本太平洋側を中心に太平洋高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

